

先の3・7中央行動では、テレビの報道もされましたが、その内容が、一方的で正確でなく、視聴者の誤解を招きかねないものだったので、自交総連ではテレビ朝日に以下の意見を送り抗議しました。

2019年3月20日

テレビ朝日 御中

自交総連（全国自動車交通労働組合総連合会）  
中央執行委員長 高城 政利

### テレビ朝日ニュース報道についての意見

自交総連は3月7日、白タク合法化（ライドシェア解禁）に反対し、経済産業省に対しタクシーで経産省をとりまく車両請願、組合員が一人ずつ請願書を手渡す個人請願行動を行い、その後、ソフトバンクへのデモ行進も行いました。行動の様子は、テレビ朝日の取材を受け、当日のニュースで放映されました。

この報道内容が、行動を主催した私たちの意図、行動の趣旨とは異なる印象を与えるものとなっていることについて抗議し、視聴者が行動の趣旨を正しく理解できる報道となるよう要望します。

ニュースでは、当日の行動に参加した組合員のタクシー運転者のインタビューが放映されましたが、その内容は、（白タク・ライドシェアが合法化されると）売上げが減る、収入が減る、という部分のみが強調されるものでした。

運転者の収入が減るということ自体は事実ですが、行動の趣旨は、白タク・ライドシェアは、利用者の安心・安全を確保する仕組みがない危険なものであり、そのようなものを合法化することで、タクシーを含む公共交通が破壊されてしまうことに抗議し、つよく反対の意思表示を行うことでした。

こうした点への説明がなく、運転者の収入が減って困るという部分だけが紹介されると、視聴者に、タクシー運転者は自分の収入が減るという利己的な意識で白タク・ライドシェアに反対しているのではないかとの誤解を生じかねません。

テレビでのニュース報道は大きな影響力をもつものであり、公正に、かつ視聴者が全体を正しく理解できるものとなるよう編集し、放映することに努められることを要望します。

以上